

平成 28 年度第 2 回王寺町総合教育会議・議事録概要

日 時：平成 29 年 2 月 1 日（水） 午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分

会 場：王寺町役場 3 階 応接会議室

委 員：平井町長、梅野教育長、巽教育長職務代理、藤岡教育委員、東中教育委員、池島教育委員

- ・議題（1）資料に基づきパブリックコメント、スクールミーティングの報告について事務局より説明を行った。

主な意見の概要は、次の通り。

- パブリックコメントとして意見を求めると、反対意見が多くなるものであるが、今回は真摯であり筋が通った意見が多いと感じた。
 - 意見の中でも、「小中一貫校の話しが急に出来た」という意見が多かった。
 - カリキュラムや学校運営も含めて決定していないことが多いので、賛否の判断がつかないという意見も多い。
 - 今後の予定について十分に説明を施さなければ、コンセンサスは得がたいと思う。
-
- ◆間もなく小学校課程の学習指導要領が改正され。これを受け、小中双方の教員の意見を参考にしながら、9 年一貫のカリキュラムを来年度から作成に取り掛かる予定をしている。
-
- できるだけ早い段階で小中一貫教育の先進校に赴き、現場の意見を伺いたいと考えている。
 - 今年度、教育委員会で小中一貫校 2 校を視察したが、その時に挙げられたメリット及びデメリットを紹介してもらいたい。
-
- ◆箕面市立とどろみの森学園では、4・3・2 制で行われており、それぞれのブロックの

リーダー学年を活躍させるような縦割りの活動を重視されている点が良かった。

- ◆ランチルームやブロック単位で集会ができる部屋等、ハード面の工夫がなされていた。
- ◆小中教員が合同で、それぞれの指導方法の研究を行っていた。これは来年度から実施したい。
- ◆もう1校、池田市立ほそごう学園は大阪府のスクールエンパワーメント推進事業により教員加配があり、9年一貫の授業づくりや地域との連携に力を入れられていた。
- ◆両校とも職員室は1つで、情報交換がしやすい環境であった。

○デメリットは無かったか。

- ◆なかなかデメリットは伺えなかったが、PTA組織の統合に関して挙げられていた。
- ◆チャイムに関しては、パブリックコメントでデメリットとして挙げられていたが、始業時に鳴動するのみで、特に支障はないとのことであった。

○王寺小学校と王寺中学校の老朽化は明らかであり、その上、「トイレが臭い」や「空調がなく暑い」という意見も聴いている。特にトイレの問題は議会においても、何度も取り上げられている。

○私の立場から言うと、学習内容やカリキュラムに関しては口を挟むべきことではない。しかし子ども達の学習環境を整えることは、首長としての責務だと考えている。

○トイレや空調設備を整えるにも、現在の校舎では配管や電気容量の問題があり、また王寺小学校は片岡王寺の文化財包蔵地のため校舎改築も難しい。

○王寺小学校の地が難しいのであれば、通学等を考慮すると適地は王寺中学校の場所となるのは当然の流れである。

○国において色々な知見が集められた結果、小中一貫教育を行う義務教育学校が法制化され、また昨年度策定した「王寺町教育振興ビジョン」においても議論を重ねてきたところである。

○王寺町教育振興ビジョンにおいても議論を尽くし、パブリックコメントを行い、また策定後も義務教育学校設置検討懇話会において議論を重ねた。よって今回のパブリックコメントやアンケートの中で多く寄せられていた「急に出た話」ではないことを理解していただきたい。

- ◆子ども達にとっては教育を受ける環境が最も大切なことであるが、欧米に比べ、日本の学校の校舎は無味乾燥である。

- ◆また欧米では ADHD（多動性障害）の研究が進められており、研究成果がようやく日本に入ってきたところである。
- ◆大阪府寝屋川市は 10 数年前に校区割の変更を行い、中学生が小学生の面倒を良く見るようになった。このように世話をする・されるの関係をすることは、中1ギャップを解消することに繋がる。
- ◆私は大学でいじめや不登校の研究をしているが、10 数年前から不登校の数は減少していない。不登校を解消するのは難しい問題であるが、私は人間関係を作ることであると考えている。
- ◆王寺北小学校は不登校ゼロである。こういう素晴らしい学校があるので、今後は教員の研修を重ね、義務教育学校に生かしてもらいたい。
- ◆義務教育学校が開校することで、現在の小中学校の名前が無くなり、寂しく感じることもあると思うが、より良いものを作るためには避けて通れない過程である。

○小中学校における人間関係は将来の基盤となる。昔は年齢が違う子ども同士で遊び、自然と上下関係が培われていた。しかし今は少子化により、子ども同士が接する機会も減っている。これが中1ギャップに繋がっており、9年間一体の教育が必要となってきている。

- ◆欧米の研究では、学力を伸ばすためには良好な人間関係を築く事が大切であると報告されている。

○私の子どもは、幼稚園から中学校まで 12 年間 1 クラス編制であった。

○幼稚園入園時の保護者会で「いじめは絶対に出さない」と話し合い、中学卒業までの 12 年間、保護者や地域で子ども達を見守ることができた。

○義務教育学校でクラス数は増えるかもしれないが、連携・団結により子ども達が逞しく成長するはずである。

○教育の形態も年々変化しており、また ICT の進化による学習形態の変化もあることから、昔の形態に囚われず、子ども達にとって何が良いのかを考えながら前進していくことが必要である。

- ◆学校は子どもが主役であるが、もう一方の主役は教員である。理想を言えば、王寺の義務教育学校には小中両免許を持った教員に赴任してもらいたい。教員の人事権は、王寺町には無く奈良県が持っている。

- ◆良い教員に赴任してもらうためには、早期に義務教育学校を設立し、奈良県に要望

をしていかなければならない。

◆この他、緊急に検討していかなければならない意見はないか。

○保護者意見の多数は、メリット・デメリットが分からないということ。

○目指す15才段階の子ども像を設定し、9年間の系統性を重視したカリキュラムを現場の教員が中心となり、来年度よりプロジェクトチームで取り組んでいく。

○施設規模についても心配の声が多く、来年度、基本計画として校舎や運動場、体育館の配置、ゾーニング案を作成する。

○これらの内容が提案できるような段階で、保護者や地域の方に説明を施し、また意見を伺い、理解を得ながら進めていきたい。

◆通学路の意見が多かった。北の義務教育学校が王寺中学校に開校するのであれば、現在の通学路を勘案しながら、(義務教育学校の)通学路の設定は並行して進めることができるのではないか。

○並行して進める。

◆新しい学校ができれば、近くなる人も居れば遠くなる人も居る。しかし遠くなる人も、国が決めた基準の範囲内であることを理解してもらいたい。

◆しかし安全に関しては配慮すべきことであるので、町長部局として早急に取り掛かりたい。

○王寺北小学校の跡地は、どうなるのか。

◆社会教育施設・社会体育施設等、地域のコミュニティの場として検討していきたい。

○スクールミーティングのアンケートの中で、クラスの数が増えるとあったが、学級編制の基準が変わらないので、「増えることもある」という解釈であり、こういった説明が不足しているのではないか。

◆現在、王寺北小学校では児童数全体が少なく、結果として1クラス当たりの児童数が少ないため、そういった意見が出る。文科省による加配教員やティームティーチングできめ細かく対応していく。

○建設中、在学生徒への心配の意見も多く見られたが、配慮等は考えられているのか。

◆授業終了後に工事を行う等の考慮を行う。またアンケート調査等による心のケアも実施する予定である。

○義務教育学校は維持管理費を削減するためという意見もあったが、教育環境を改善する費用を抑えるつもりは全く無い。

○現状の施設を改修した場合と、義務教育学校を開校した場合の比較はしなければならない。

○奈良県産材による木質化・木造建築も行いたいですが、費用を算出してから検討する。

・議題（2）資料に基づき「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針（案）」について、前回の総合教育会議で基本方針の素案を提示し、パブリックコメントやスクールミーティングを経て、留意事項を付加したことを事務局より説明した。

主な意見の概要は、次の通り。

○児童生徒にとっての環境変化への対応として、「校区再編に伴い」の文言付加を提案する。

◆了承。

○他に意見が無いようなので、「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針（案）」の協議を経たとし、正式に「王寺町義務教育学校設置に向けた基本方針」としてよいか。

◆委員一同了承。

○今後はこの基本方針に沿って進めていく。

◆今後は2月9日の議会全員協議会でこの基本方針の説明を行う。その後、年度末に北の義務教育学校の用地測量や調査業務に着手、3月議会では土地利用調査・校舎規模・校舎レイアウトに関する基本計画を策定する費用を予算計上する予定である。

◆事業が進むに当たり、地域住民や保護者に対して説明会を実施していく。